

今回は、日本語教育センターの牛窪隆太先生（日本語教師性とは何か―日本語教師研究の意義と課題―）と、高村めぐみ先生（日本語母語話者が聞きやすいと評価する音声）に、ご発表いただきました。

牛窪先生はこれまでの日本語教師にとつての自己成長が対学習者で考えられてきていること、教師間に存在する暗黙の了解という与えられた枠組みを飛び越えるものではなかったことを、研究事例から指摘なさいました。「日本語教師性」という新しい概念についてのご発表で、参加者にとつて、日本語教師とは何か、また日本語教育とは何か、改めて問い直す機会となりました。

高村先生はスピーチとプレゼンの際のポーズの規範を導きだし、そのポーズの規範を学習者に指導することで、日本語母語話者がプラスに評価するようになるという実験結果をご報告くださいました。音声指導は難しいと感じる教員が多い中、他の韻律要素より指導しやすいと思われるポーズに着目することで、学習者のスピーチ・プレゼンの改善が大いに期待できるという画期的なご発表でした。

第16回

日本語教育研究会報告

～2015年7月24日実施～



〈牛窪 隆太先生〉



〈高村めぐみ先生〉

第17回

日本語教育研究会報告

～2015年10月10日実施～



〈シドニー工科大学 尾辻恵美先生〉

今回は、シドニー工科大学の尾辻恵美先生をお招きして、「多言語社会における言語教育とは何か」というタイトルでお話いただき、50名を超える方にご参加いただきました。

尾辻先生は、「オーストラリアと日本における「街の言語使用」について実施されている「フィールド調査から、「メトロ・リンガリズム」という概念を提唱されています。講演会では、言語やアイデンティティをめぐる近年の議論が紹介され、加算的な言語理解の限界点や「場」の観点から言語使用を見ていく意義について、お話がありました。その上で、「街の言語使用データから、「メトロ・リンガリズム」について、具体例を見ていきました。言語資源とは、頭の中にあるだけでなく、その場にある様々なリソースとの交渉の中で構築されるものでもあるという考え方は、現在の言語教育における「モノリンガリズムの言語観」に対して、大きな示唆を与えるものです。後半のディスカッションでは、地域の日本語教育に携わる参加者を中心に意見が出され、活発な議論が行われました。

あ

い

WELCOME! 交換学生紹介!

この秋学期に世界各国の協定校から159名の交換学生が本学に来てくれました。なぜ本学で学びたいと思ったのか、開学での生活はどうかなど話を聞いてみました。



キム ジウォンさん（慶熙大学）

慶熙大学 キム ジウォンさんにもいいところだと思ったので、開学を選びました。留学は秋学期の半年だけです。私の趣味は絵を描くことなので、絵画部弦月会に入りました。写真の絵は私が描いて、展覧会に出したものです。展覧会の準備では、みんなでアトリエから絵を運んだり、会場内の設営をしたりしました。照明や流す音楽も一緒に考えました。みんなが活動するのがとても楽しいです。アカデミック日本語という授業では、日本人のL&Aと一緒に、ディスカッションやイベントをしています。新聞記事や自分で集めた資料などの読解や話し合いを通じて、多くの日本語が学べます。クラスメイトやL&Aとも仲良く慣れて、楽しいクラスです。授業後にはみんなで一緒に昼ごはんを食べに行ったりもしています。日本人学生と同じ授業も履修していて、日本語文法論などを履修しています。私の専門は日本語で、帰国したら日本語教育の実習があります。文法の勉強は、その時の役に立ちそうです。勉強も楽しいし、友達もたくさんできました。開学に留学して本当に良かったと思います。残りの留学生生活も、思いっきり楽しむつもりです!

ルの日本語力を身につけるために、また留学することに決めました。開学は他大後半クラスで勉強しています。僕の専門はコンピューターサイエンスです。開学で勉強した日本語は、帰国しても単位にならないんです。でも、日本語を勉強するのが好きなので、日本語能力試験のN1合格を目指して、頑張っています。ドイツの大学には日本のクラブやサークルのようなものはありません。それで、サークル活動にも興味があり、実際にサークルに入ることにしました。前回留学していたときは、料理サークル味彩（あじさい）に、そして今回の留学では、K☆Capoeiraに入りました。今、留学生は僕だけです。日本語ですつと話していただきますから、日本語のいい勉強にもなります。日本人の友達もできたし、留学生の友達もたくさんいるし、開学に戻ってきて本当によかったです!



チュン グ メロディさん（リール第一大学）（左）、バイエル フロリアン ヨセフさん（アウグスブルク大学）（中央）、タザリト ナシムさん（IBA）（右）

アウグスブルク大学 バイエル フロリアン ヨセフさん 2014年秋学期に交換学生として開学で学び、2015年秋学期に戻ってきました。前に留学していた時は、中級前半クラスで勉強しました。帰国後、日本語能力試験のN3に合格しました。ドイツの大学では高いレベルの日本語クラスがありません。それで、もっと高いレベルがありそうです。



日本語教育センター開講科目
「日本語教育基礎演習」での社会貢献活動体験紹介



国際学部3年 上田 はるかさん

国際社会貢献活動に参加し、5か月間インドネシアの小学校と高校で日本語教育や日本文化紹介を行ってきました。その活動について、日本語教育基礎演習で紹介する機会をいただきました。

現地では自作プリントで日本語の文法や会話を教えました。毎日教案を作成して、試行錯誤しながら授業を行いました。文化紹介では着物や習字、七夕やタイムカプセルにも挑戦しました。どの授業も忘れられません。

壁にぶつかった時もありましたが、派遣前に履修した日本語教育基礎演習のおかげで、楽しみながら日本語教育に取り組むことができました。特に、教案の作成練習が役立ちました。授業の流れや生徒への質問、生徒に合わせて簡単な日本語を話すために、1字1句セリフを書いた教案を毎回作成して授業に臨み、自信を持って笑顔で授業を行うことができました。それも派遣前に演習でお世話になった阿部先生、模擬授業でアドバイスをし合った受講生のおかげです。ありがとうございました。



〈インドネシアの高校にて〉

文学部4年 嶋本 葵さん
大学内を歩いていると、留学生を見ない日はありません。そして、彼らの隣には、日本人学生がおり、楽しそうに話しています。入学直後からそうした光景を目にしていた私は、日本に興味を持ち、日本での生活を楽しむ留学生の力になりたくて、日本語パートナーに応募しました。

私のフランス人のパートナーは、最初に会った時は、ほとんど会話が成り立たず、日本での慣れない生活に不安を感じていました。私は4ヶ月間、フランスに留学していたのですが、その時の不安な気持ちを思い出し、自分であれば何をしたいかを考えました。その結果、フランスに関わる話題を中心に話したり、写真が好きで彼女に様々な日本の土地の景色を見せながら、距離を縮めていきました。そして今では、自然な笑顔で、積極的に日本語で話してくれるようになりました。

日本語パートナー
活動報告



（リヨン第二大学からの交換学生、フルニエ ジュリアさん（右）と日本語パートナーの文学部 嶋本 葵さん（左））

留学前にウェブサイトで大学の情報を調べました。関学は留学生のサポートもしっかりしているし、日本語パートナー制度もあるので、関学を選びました。フランスでは日本語の先生とか日本語で話すチャンスがありませんでした。日本語パートナーはとてもいい制度だと思います。

秋学期で日本語パートナーの活動は終わりますが、これからも友達としていい関係を続けていきたいです。

リヨン第二大学
フルニエ ジュリアさん
2人の日本語パートナーと1週間それぞれ1回ずつ会って、週末にしたことなどを話しています。まだ日本語のレベルがあまり高くないので、全部日本語で話すのは難しいです。でも、できるだけ日本語で話しています。初めて会ったときより、話せる日本語が増えました。



新任
教員紹介

よろしく
お願いします！



〈早川 杏子先生〉

9月から日本語教育センターに着任した早川杏子（はやかわ きょうこ）です。ここに来る前は名古屋、東京にいました。だんだん西に移動していますが、関西に住むのは初めてです。専門は心理言語学で、第2言語の習得プロセス（特に聴解や漢字処理）に興味があります。研究を通じて、行ったことのない国や文化に触れたり、いろいろな人に会ったりすることは、とても刺激的で、人生を豊かにしてくれると思います。日本語を教えるときも、似たような感覚です。日本にいながら、考えたこともないような留学生の“新しい日本語”や考え方に、新鮮な驚きや興味を抱かれます。

教えるときは、楽しく！がモットーです。どうぞよろしくお願いします。

2016年度 春学期

春学期に来日する交換学生の日本語会話の練習や、生活の補助をしてくれる学生を募集します。

【募集説明会】※いずれかの日程に参加すること。

◆西宮上ヶ原キャンパス◆

日時：2015年12月8日（火）12:50～13:15
2015年12月11日（金）12:50～13:15
場所：G-202

◆神戸三田キャンパス◆

日時：2015年12月8日（火）10:40～11:05
場所：I-105

【申込期間】 2016年1月6日（水）～1月13日（水）

※WEB登録後、所定の申込用紙に記入の上、日本語教育センター事務室、またはKSC国際教育・協力センター事務室まで提出

センターからの
お知らせ



発行人：関西学院大学 日本語教育センター
発行日：2015年12月7日

詳細は日本語教育センターホームページで確認してください。
http://www.kwansei.ac.jp/cjle/cjle_004054.html